

真夜中の虹 (1988)

ARIEL

メディア 映画

ジャンル

製作国 フィンランド

色彩 Color

時間 74分

初公開日 1990/09/01

公開情報 シネセゾン

【キャッチコピー】

男は、太陽だけが欲しかった。

【解説】

「マッチ工場の少女」や「コントラクト・キラー」の比較的シリアスな（少なくともナンセンスさは希薄な）系譜のカウリスマキ作品。夢につかれて南へ下る男の旅を、波乱万丈でありながら淡々と語る両刃ぶりは変わらない。フィンランドの北の果て、ラップランド。炭鉱の閉山で失業したカスリネン（T・パヤラ）に真白なキャデラックの鍵を託し、父は自殺する。南を目指すロング・ドライブの始まり。ヘルシンキに向かう途中、二人組の強盗に有り金全部奪われ、仕方無く日雇い仕事に出たその帰り、駐車違反の切符切りのイルメリ（S・ハーヴィスト）と知り合う。家のローン返済のため複数の仕事を抱え働きづめの彼女と、その息子リキ（E・ヒルカモ）に感じる奇妙な愛情。仕事にあづけた彼は思いあまって車を売るが、そこへ偶然、例の強盗を見つけ殴りかかる。逆に警察の御厄介でいきなり実刑。しかし刑務所で同室のミッコネン（常連M・ペロンパー）と共に、イルメリの差し入れのパンに隠されていたヤスリで脱走に成功。メキシコ行の船＝アリエル号での国外脱出を企て、偽旅券の資金にと強盗までして稼いだ。そして、カスリネン、イルメリ、リキの三人は港に向かった……。いつになくハードボイルドなタッチで、行き場のない男女のやるせない放浪の舵取りをするカウリスマキ。目指すはやはり南（エル・スール）なのか。相棒サルミネンのカメラが光る。

【クレジット】

監督	アキ・カウリスマキ	Aki Kaurismaki
製作	アキ・カウリスマキ	Aki Kaurismaki
脚本	アキ・カウリスマキ	Aki Kaurismaki
撮影	ティモ・サルミネン	Timo Salminen
音楽	ヨウコ・ルツメ	Jouko Lumme
出演	トゥロ・パヤラ	Turo Pajala
	スサンナ・ハーヴィスト	Susanna Haavist
	マッティ・ペロンパー	Matti Pellonpaa
	E・ヒルカモ	Eetu Hilkamo